現代未聞 追手門
130年の伝統を革新の力に

追手門学院大学　一貫連携教育部

学院志研究室 News Letter

News Letter of Research Center for the History of Otemon Gakuin

祝 将軍山会館 10周年！

将軍山会館は、学院創立120周年記念事業ならびに大学創立40周年記念事業の一環として校友会からの基金をもって2008年に竣工し、今年で10年目をむかえました。そして追手門学院も130周年の節目にあたります。

今年7月からは学院志研究室が展示の企画運営に携わりさらなる充実を試みているところです。一度ご覧になられた方もそうでない方も、ぜひご来館ください！

将軍山会館

追手門学院大学将軍山会館は校友会の基金をもって開館した経緯からこれまで総務課が管理をしていました。ところが2018年6月18日(月)に大阪北部を震源とする地震が発生し、将軍山会館も被災しました。そのために7月から学院志研究室が展示の企画運営を担うことになりました。折りしも学院志研究室長が将軍山会館の館長を兼ねていたことが幸いでした。

学院志研究室では大幅な展示替えと企画展を計画し、今年9月に将軍山会館をリニューアルオープンさせました。現在、企画展「将軍山会館10年のあゆみ」を開催しています(2018年10月31日(水)まで)。この展示は学院130周年と将軍山会館開館10周年を記念したもので、将軍山会館の建設関係資料や、10年にわたる寄贈・収集資料、これまでに催した展示などをふりかえります。

今回は常設展のなかから将軍山会館のお宝を２つご紹介したいと思います。１つ目は、展示室を入ったほぼ正面にある「写真つき小物入れ」です。漆塗りで仕上げられた小さな小物入れですが、なにより特徴的なのは明治時代に撮られた古写真があしらわれていることです。写っているのは西南戦争で活躍をした偉い軍人ばかり。一番左には追手門学院の創設者である高島鞆之助がいますが、ほかにも日本大学や國學院大學の学祖である山田顕義などが写っています。もともとはオーストリアにあったもので、2011年に追手門学院大学が購入しました。

２つ目は、「青が散るによせて」という絵画作品です。この作品は、大学１期生の宮本輝さんが追手門学院大学を舞台にして執筆された小説『青が散る』をテーマに日本画家の坂上楠生さんが描かれたものです。高いところに展示されていますので展示室の１階からは見えづらいですが、２階からは良く見えます。細長く切り取られた窓からみえる緑に映えて美しいので見逃さずにご覧いただきたいと思います。

（小倉 久美子）

学院志研究室では2018年9月13日(木)に博物館実習を行ないました。実習生は8名で、4号館1階の資料室と将軍山会館とを実習場所としました。将軍山会館では展示ケースのひとつを実習生が力を合わせてつくりました。展示したのは大学考古学研究会が昭和47年(1972年)に発掘した出土遺物です。実習生に体験記を寄せていただきましたのでご紹介します。

博物館実習 体験記

私は、大学に約3年間通っていながら「学院志研究室」が大学のどこに位置しているのか実習の日を迎えるまで知らなかった。4号館1階にある資料や段ボールが積まれた研究室で、スタッフの小倉先生は研究室の概要や活動について教えてくださった。

周知のように2018年6月に発生した地震で大学には大きな被害が出ており、将軍山会館の展示品にもその影響が及んでいた。よって、「学院志研究室」のスタッフを中心に展示が一新されることになり、その一部を私たち博物館実習生が手掛けることになったのである。

私たちは、「学院志研究室」で4種類の考古資料の展示作業をおこなった。私は資料の一つである「高坏」という土器を固定する作業と、その解説文（キャプション）の製作を担当した。作業を進める中でぶつかったのは、キャプションの“統一性”の問題であった。私たちは4種類の資料に対して、文字の大きさも様式もばらばらなキャプションを作ろうとしていたのである。「展示物より大きなキャプションは作らない」という小倉先生のアドバイスを踏まえ、実習生同士で展示の構想を確認し合うことが展示の“統一性”へと繋がっていった。その結果、制限時間内に実習生全員で展示を築き上げることができ、その達成感は大きかった。

私たちが手掛けた展示は将軍山会館の中のほんの一部にすぎないかもしれない。しかし、この展示を巡る一連の作業をおこなった「学院志研究室」という場を通して、展示をおこなう楽しさを知ることができたのではないかと私は感じている。　（地域創造学部３回生　松尾有起）

今回、博物館学芸員の実習の一環として、真龍寺古墳で出土した土器や装飾品の展示ケースを製作しました。学院志研究室で実習生全員で土台から土器の固定、キャプションを作り、完成した展示ケースが現在、将軍山会館の二階の一角にて公開されています。

学院志研究室ではこれまでの大学運営や経歴のデータだけでなく、追手門学院の原点である大阪偕行社附属小学校の資料、また学友会の活動記録や将軍山祭のパンフレットなど、過去の学生の受講以外の活動も保管されています。その中で私の所属する文芸同好会の機関誌「凄艶」もあると知りました。自分たちのこれまでの活動を知り、さらには学院の歴史の一部として扱ってくれている。そう知り、とても驚きました。同時に嬉しくも思いました。

学芸員＝博物館や美術館で受付や監視をする仕事、ではありません。展示もそうですが、資料の保存などのあまり表面に出ない、裏側全てを担うと言ってもいい専門家であると是非知っていただきたいです。

（心理学部３回生　河野仁美）

お知らせ

（2018年6月～9月）

主な活動

6月　7日　第２回室員会議
（将軍山会館Ｂ１会議室）
資料室の増設が決定。これにより記念資料室を「学院志研究室第一資料室」、新たな資料室を「学院志研究室第二資料室」と称することが承認された。

11日　学院志研究室News Letter第７号発行

11～13日　第二資料室に資料を移動

18日　大阪北部を震源とする地震が発生

20日　第一資料室の復旧作業を開始

21日　被災記録物の収集を開始

26日　第二資料室の復旧作業を開始

7月　5日　第３回室員会議（会議室４Ｂ）

27日　将軍山会館の復旧、展示替え作業を開始

8月21日　被災した中高校舎の取り壊しに伴い、中高学院志資料の移管準備を開始

9月　3日　将軍山会館リニューアルオープン

13日　博物館実習

学外活動

6月17日　「明治天皇の造幣局行幸展」
（於、造幣博物館）を見学、情報交換（横井）

7月　9日　社会・労働関係資料センター連絡協議会主催の整理ワークショップ
（於、造幣博物館）を見学、情報交換（横井）

26日　関西学院大学への視察
（藤吉、住谷、小倉）

31日　全国大学史資料協議会西日本部会第2回研究会
（於、京都市学校歴史博物館）に出席（小倉）

学内外への協力

◇ 茨木市制70周年を記念して出版された写真集『茨木市の70年』（樹林舎）に古写真を提供

◇ 考古学研究会50周年記念祝賀会に写真を提供

◇ 大学12期生の還暦祝賀会に写真や卒業アルバムなどを提供

編集後記

ニューズレター第８号をお届けします。今年度は将軍山会館ができて10周年ということで、学院志研究室所蔵の資料も活用し記念の展示会を実施しました。大学院で学び専門的な訓練を受けたスタッフがフル回転して展示を準備してくれました。次回は新キャンパスをテーマに展示を検討中です。もっぱら過去の蓄積を所管する学院志研究室にとって挑戦的な試みとなります。お楽しみにお待ち下さい。

（藤吉圭二）

追手門学院大学　一貫連携教育部　学院志研究室　News Letter　第8号

2018年10月22日発行

■お問い合わせ先■

〒567-8502　大阪府茨木市西安威2-1-15

archives-g@otemon.ac.jp

資料室　072-665-5062（内線4405）

将軍山会館　072-641-7693（内線3801）

バックナンバーはホームページでダウンロードしていただけます